



昭和小 第16号

校長室便り
文責
生田 文明

人権月間の取組

本校では、十一月十二日から十二月十二日までを人権月間とし、部落問題をはじめ、様々な人権問題について学習し、身近にある不合理や偏見、差別などをなくすために自分ができることを考え、実践する取組をおこないました。

光っ子集会

四日に光っ子集会を開催しました。テーマは「みんなちがって、みんないい。」

農業の盛んな昭和校区には、ベトナム、カンボジア、フィリピン等の国々から、たくさん農業研修生が来日し、外国の方々とは接する機会がとて多くなっています。

グローバル化が進展する中、互いの文化や習慣の違いを認め合い、尊重することは、とても大切なことです。

そこで、講話では、地球儀・世界の子どもたちの写真・金子みずぶさんの詩を用い、また、「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消のための法律」「部落差別解消推進法」についてもふれ、性別、出身、国籍、障が



いのあるなしに関係なく、互いに違いを認め、尊重し合うことの大切さを説きました。

授業参観



2年生



1年生



5,6年生



3,4年生



授業を通して学んだことをみんなが実践できてこそ、一人一人が大切にされる社会ができると思います。「自分を大切に、お友達も大切に。」このことから全てが始まると思います。

人権集会



これまで授業等で学び、取り組んできたことを全校へ知らせ広げる場として、十一日に校内人権集会を行いました。

全員で「世界がひとつになるまで」を斉唱した後、児童会運営委員が、世界人権宣言(抜粋)を読み上げ、世界中が一つになって、人権を大切にしていく取組を行っていることを発表しました。また、各学級からは、これまで授業等で学んだこと、それをもとにした学級の人権宣言もおこないました。また、「人権子ども集会フェスティバルinやつしろ」に参加した児童の感想発表も行いました。「二人一人の人権を大切にしよう。差別をなくそう。」その取組の輪が広がっていることを子どもたちは、実感したようです。

私からは、本校児童の「心のアンケート」の結果を示し、「これまで、からかわれたり、悪口を言われたりするなど、いじめと思われることが起きていることを話しました。

いやなこと辛いことがあった場合は、自分の心の中にしまっておかず、勇気を出して周りの人に必ず伝えること。また、友達が辛そうにしていたら、必ず声をかけること。

一人一人が笑顔あふれる学校、社会にするためには、これらのことが大切であることを私自身の体験をもとに話をしました。

十一月二十八日の授業参観では、人権に関する授業を行いました。一年生は「さるとかに」を題材に差別に立ち向かうことの大切さを、二年生は「とべないペンギン」を題材に友達のよさを知る大切さを、三・四年生は「いのちをいただく」を題材に食肉産業についての理解を深める学習を、五・六年生は「手紙をくれたあなたたちへ」を題材に差別や偏見をなくすために私たちにできることを議論しました。



1年生